

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

- | | | |
|----|--------|-----------|
| 1. | 教育学部 | 3-1-1(教育) |
| 2. | 教育学研究科 | 3-2-1(教育) |

教育学部

- I 教育水準 3-1-2(教育)
- II 質の向上度 3-1-4(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、平成 19 年度から小・中学校統合型の教育課程を廃止して、初等教育と中等教育の 2 課程に分け、それぞれに特化した専門性を重視した教育組織を編成し、同時に旧生涯教育総合課程の実績を活かしたコース（子ども文化コース）や現代的課題科目群（異文化理解・国際文化等）を新課程カリキュラムに組み込むなど、教員養成に責任を負う教育大学としての体制を整えており、相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、学務委員会、カリキュラム委員会、教育実習委員会、国際交流委員会、課程改革特別委員会（臨時）、授業の自己点検・評価及びファカルティ・ディベロップメント(FD)を担当する目標・評価室等、教育内容や方法に取り組む体制が整っており、学生による授業評価と教員へのフィードバックが適切に成されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教職専門科目と専門教育科目とを有機的に結びつけ、教育実習とそれに直接関連した科目を 4 年次まで継続して学ぶことのできる教育課程を編成し、「特別支援教育概論」「環境教育概論」（全課程必修）や多彩な「現代的課題科目群」を配置するとともに、教科専門科目については教員免許法上の規定に上積みした単位数を必修とするなど、教員養成の理念・目的に合致する様々な工夫が見られ、相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生による授業評価アンケート、学生生活に関するアンケート等の分析・活用、学都仙台単位互換ネットワークを活用した単位

互換制度、留学生を対象とした日本語・日本文化研修プログラムの策定と実施、宮城県、仙台市及びその他県内4市教育委員会とで組織する連携推進協議会の開催など、学生や社会からの要請に対応する体制が確立しており、またその成果が教育内容に着実に反映されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、全学年において履修可能な基礎教育科目、教養教育科目の「くさび型」カリキュラム、「現代的課題科目群」の確実な履修を可能とする時間割上の工夫（固定枠の設定）、基本実習（3年次、附属校園）と応用実習（4年次、協力校）の組み合わせである「積み上げ方式」の実施、グレード・ポイント・アベレージ(GPA)の導入、「授業改善のためのワークショップ」の実施、授業改善等の相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、主体的な学習を促す少人数教育の実施、入学から卒業までの主体的な学習に対応できる指導体制の構築、GPAやCAP制の導入、夜間や教育実習期間中の図書館の開館時間の配慮、コース・専攻ごとの学生研究室の設置の配慮がなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、複数の学校種の教員免許の取得を目指すため、80%以上の学生が卒業必要単位数以上を取得し、すべての科目においておおむね80%の取得率、社会教育主事資格や学芸員資格、社会福祉士の国家試験受験資格等の

取得者がそれぞれ数十名前後で推移しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生による授業評価アンケートの結果ですべての質問項目における総平均値が5段階評価で4.0という数値であること並びに教育実習後の学生の感想文、教員採用試験合格者を対象としたフォローアップ講座受講後の学生の感想文、フレンドシップ事業の一環である「Let's サイエンス」（理科教育講座が毎年実施）受講後の学生の感想文などにより、様々な学業の成果が伺えるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、就職・進路の年次変化（平成14年度から18年度）を見ると、教員就職率は増加の傾向にあり（平成18年度は60.6%）、企業等への就職も一定数が保たれているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業して専任教員として就職した者に対する管理職への聞き取り調査（平成18年度）で肯定的な評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断さ

れた。

教育学研究科

I 教育水準	3-2-2(教育)
II 質の向上度	3-2-4(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、学校教育専攻、障害児教育専攻及び教科教育専攻の3専攻で編成され、学生定員及び教員組織の構成は適切であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、取組の体制は基本的に学部と一体であり、目標・評価室による学生に対する授業評価アンケートの実施、その結果の集計・分析、各専修へ向けてのフィードバック、各専修での改善計画と報告書の提出、目標・評価室でのアンケート集計と各専修からの報告の取りまとめ並びに教授会への報告、ウェブサイトでの公開、各専修での改善計画の実施とその検証などを報告書にまとめ、目標・評価室に提出するなど、組織的な取組を行っており、相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、「臨床教育研究」（選択科目）の開設、「特設総合科目」（選択科目）の成果を発展的に再編成した「学校実践研究」（必修）の開設など、臨床の学を目指す試みが精力的に展開されており、優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、大学院生に対する授業評価アンケートの実施とその活用、修了生に対するアンケートの実施とその活用、現職教員の院生を対象とした履修方法の特例、学部開講科目の聴講及び履修に関する制度の整備、宮城県教育委員会及び仙台市教育委員会との共同による「大学院カリキュラム在り方研究会」の立ち上げなど、学生や社会からの要請に対応する試みが行われており、相応な取組を行っている

ことから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、特論、特別演習、特別実習、特別実験を特別研究Ⅰ・Ⅱへとつなぐ配列となっており、一人から数人を対象とする少人数教育で授業を展開しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学校、児童館、公民館、介護施設等に出向くフィールドワークに重点を置く授業、少人数によるゼミナール形式の徹底、指導教員の所属学会への同行、学部授業へのティーチング・アシスタント(TA)としての積極的採用などは、積極的な学習を促すことにつながっており、相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、修士の学位を取得し専修免許状を取得することが、研究科の目的・特徴から一般的になっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、大学院生を対象とする授業評価に関するアンケート結果（平成19年度前期記述式、平成19年度後期OCR方式）等で、学業の成果に対する肯定的な評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学

業の成果は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、ここ3年間の進路では、教職に就く者が6割前後と過半数を占めており、教育大学における大学院機能を一定程度果たしているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成18年度に大学院を修了し小・中・高校の教職に就いた者の管理職に対する訪問調査で、教育姿勢や対人関係では肯定的な評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。